

平成31年度に使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔社会〕 種目〔社会〕

1 本市の実態や児童の状況

- 本市には、官公庁や商業施設が集まる地域、工業・農業・漁業が行われている地域、宅地造成により住宅地が広がる地域、豊かな自然の残る地域、歴史的遺物が残る地域など、それぞれに異なる特色をもつ地域が分散している。社会的事象を学ぶ社会科にとっては、様々な分野の事象を具体的に観察・調査することができる環境にあるため、児童が興味・関心をもちながら学習することができる好条件の市域である。
- 国際平和文化都市である本市で学ぶ児童は、平和に対する意識が総じて高い。また、様々な社会的事象への関心も高く、体験的な学習にも積極的に取り組むことができる。しかし、自ら課題を見付け、見通しをもって課題解決を図る力や、身に付けた知識や調べたことをもとに、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考える力、社会参画しようとする力には課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫 ② 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	③ 学習内容に対する興味・関心を高めるための工夫 ④ 問題解決的な学習や体験的な学習を実施するための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑤ 単元や資料等の配列
＜内容の表現・表記＞	⑥ 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用 ⑦ 本文以外の記述の工夫 ⑧ 配色や文字の大きさ等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑨ 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

3 各教科書の特徴及び意見

1 基礎・基本の定着

(1) 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 5年「国土の地形の特色」で、次の数の地形と具体的な名称を地図に示している。
・平野(14)・盆地(4)・台地(1)・川(18)・山地、山脈、高地(16)
- 5年の国土に関する単元において、北方領土、竹島、尖閣諸島について、それぞれの位置を地図中に示すとともに、「領土をめぐる問題」という文章資料の中で、「日本固有の領土」と記載している。

(2) 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫

- 5年の国土に関する単元では、22カ国の国名及び国旗を地図とともに掲載している。
- 6年「長く続いた戦争と人々の暮らし」で、被爆前の原爆ドーム、現在の原爆ドーム、原子爆弾投下後のまちの様子、平和記念式典の4枚の写真と平和記念資料館館長の話文章資料として掲載している。
- 6年「わたしたちの暮らしと日本国憲法」では、見開き2ページの読み物資料「『平和学習の街ヒロシマ』をたずねて」として8枚の写真と文章資料を掲載している。
- 6年「新しい日本、平和な日本へ」では、諸外国との間の、解決していかなければならない問題について、「アメリカ軍基地が残る沖縄」、「まわりの国と日本」という文章資料を掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習内容に対する興味・関心を高めるための工夫

- 大単元ごとに「めあて」として学習のめあてを示している。また、小単元ごとに「学習問題」として学習問題を問いの文で示している。

(2) 問題解決的な学習や体験的な学習を実施するための工夫

- 見開きで「学習の進め方」というページを設け、「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習過程を示している。
- 5年「自動車をつくる工業」では、「自動車づくりにたずさわる人々は、よりよい自動車をたくさんつくるために、どのようにふうや努力をしているのでしょうか。」という学習問題を示し、日本の自動車づくりのよさをキャッチコピーで表すというまとめ方を例示している。
- 4年「古い道具と昔の暮らし」では、まなび方コーナー「古い道具を体けんする」において、せんたく板の使い方について文章とイラストで説明している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3・4年の単元構成とページ数は、次のようになっている。
①わたしのまちみんなのまち(40ページ) ②はたらく人とわたしたちの暮らし(58ページ) ③かわってきた人々の暮らし(24ページ) ④くらしを守る(52ページ) ⑤住みよいくらしをつくる(48ページ) ⑥きょう土のはってんにつくす(26ページ) ⑦わたしたちの県(58ページ)
- 5年の総ページ数は、260ページである(上巻120ページ、下巻140ページ)。また、6年の総ページ数は、268ページである(上巻156ページ、下巻112ページ)。

4 内容の表現・表記

(1) 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 各資料に、見開きごとに通し番号(1、2、…)が付いている。
- 6年の日本の歴史に関する単元では、文化財の写真について、表題の後に、世界文化遺産と括弧書きで記している。

(2) 本文以外の記述の工夫

- 学習内容におけるキーワードを「ことば」として取り上げ、用語の解説を記載している。また、難しい用語の解説を記載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを取り入れている。

5 言語活動の充実

(1) 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 5年では、年間を通して、次の16のまとめ方を例示している。
①白地図にまとめる。②ノートにまとめる。③スケジュール表をつくる。④表にまとめる。⑤地図にまとめる。⑥米づくり事典をつくる。⑦テレビ番組をつくる。⑧キャッチコピーをつくる。⑨カルタをつくる。⑩夢の工業製品を考える。⑪関係図をつくる。⑫情報活用宣言をつくる。⑬ホームページをつくる。⑭新聞にまとめる。⑮カードにまとめる。⑯自分の考えを提案する。

意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書は、広島原爆や平和に関する文章記述や写真資料を多く掲載している。また、「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習過程を示すことにより、問題解決的な学習を充実させるための工夫が施されている。調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成することができるよう、まとめ方の例を多く掲載している。こうした特徴は、自ら課題を見つけ、見通しをもって課題解決を図る力や、身に付けた知識や調べたことをもとに、社会的現象の特色や相互の関連、意味について考える力、社会参画しようとする力に課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 5年「日本の地形と気候」で、次の数の地形と具体的名称を地図に示している。
・平野(8)・盆地(0)・台地(1)・川(16)・山地、山脈、高地(15)
- 5年の国土に関する単元において、北方領土、竹島、尖閣諸島について、それぞれの位置を地図中に示すとともに、「日本固有の領土、竹島と尖閣諸島」という文章資料や本文の中で、「日本の領土」と記載している。

(2) 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫

- 5年の国土に関する単元では、23カ国の国名及び国旗を地図とともに掲載している。
- 6年「戦争と人々の暮らし」で、被爆直後の原爆ドームの1枚の写真を資料として掲載している。また、1ページの読み物資料「修学旅行で学ぶ原爆の被害と平和への願い」で4枚の写真と文章資料を掲載している。
- 6年「憲法とわたしたちの暮らし」では、平和記念式典の1枚の写真を資料として掲載している。
- 6年「平和で豊かな暮らしをみざして」では、諸外国との間の、解決していかなければならない問題について、「韓国・北朝鮮と日本」、「中国と日本」、「未解決の北方領土」、「沖縄のアメリカ軍基地」という文章資料を掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習内容に対する興味・関心を高めるための工夫

- 大單元ごとに「学んでいこう」として学習のめあてを示している。また、小單元ごとに「学習問題」として学習問題を問いの文で示している。

(2) 問題解決的な学習や体験的な学習を実施するための工夫

- 見開きで「学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう」というページを設け、「つかむ→調べる→まとめる・深める」という学習過程を示している。
- 5年「自動車づくりにはげむ人々」では、「自動車づくりにたずさわる人々は、どのようにふうや努力をしているのだろう。」という学習問題を示し、自動車づくりに求められていること(ニーズ)と、それぞれのニーズに応える自動車づくりのふうや取り組みを表にまとめるというまとめ方を例示している。
- 4年「昔の道具とくらし」では、せんたく板を使って洗濯をしている様子の写真を掲載するとともに、学びのてびき「古い道具を使って、せんたくをしよう」において、せんたく板の使い方について文章で説明している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3・4年の単元構成とページ数は、次のようになっている。
①わたしたちの大好きなまち(44ページ) ②働く人とわたしたちのくらし(50ページ) ③変わるわたしたちのくらし(24ページ) ④安全なくらしとまちづくり(36ページ) ⑤健康なくらしとまちづくり(44ページ) ⑥昔から今へと続くまちづくり(24ページ) ⑦わたしたちの県のまちづくり(54ページ)
- 5年の総ページ数は、232ページである(上巻164ページ、下巻68ページ)。また、6年の総ページ数は、232ページである(上巻152ページ、下巻80ページ)。

4 内容の表現・表記

(1) 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 各資料に、見開きごとに通し記号(ア、イ、…)が付いている。
- 6年の日本の歴史に関する単元では、文化財の写真について、表題の後に国宝、重文(重要文化財)、世界遺産のマークを記している。

(2) 本文以外の記述の工夫

- 学習内容におけるキーワードを「キーワード」として取り上げている。また、「解説」として、難しい用語の解説を記載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを取り入れている。

5 言語活動の充実

(1) 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 5年では、年間を通して、次の7つのまとめ方を例示している。
①ノートにまとめる。②表にまとめる。③キャッチフレーズを考える。④新聞にまとめる。⑤工業生産の未来を考える。⑥情報ルールをつくる。⑦環境チェック表をつくる。

1 基礎・基本の定着

(1) 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 5年「日本の国土」で、次の数の地形を地図に示している。
・平野(24)・盆地(0)・台地(0)・川(17)・山地、山脈、高地(20)
- 5年の国土に関する単元において、北方領土、竹島、尖閣諸島について、それぞれの位置を地図中に示すとともに、「領土をめぐる問題—北方領土、竹島、尖閣諸島」という文章資料の中で、北方領土は「元から日本の領土」、竹島は「日本固有の領土」、尖閣諸島は「日本の領土」と記載している。

(2) 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫

- 5年の国土に関する単元では、21カ国の国名及び国旗を地図とともに掲載している。
- 6年「戦争の時代から平和の時代へ」で、原爆投下後の原爆ドームの1枚の写真と原爆による広島市の被害の様子を表す地図を資料として掲載している。また、見開き2ページの読み物資料「焼け野原から平和都市をめざして」で4枚の写真と文章資料を掲載している。
- 6年「暮らしの中に生きる憲法」では、原爆の子の像の1枚の写真と碑文を資料として掲載している。
- 6年「戦争の時代から平和の時代へ」では、諸外国との間の、解決していかなければならない問題について、「日本と朝鮮半島の国々」、「日本とロシア」、「日本と中国」、「日本とアメリカ」という文章資料を掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習内容に対する興味・関心を高めるための工夫

- 大単元ごとに学習を呼びかける文章で学習のめあてを示している。また、小単元ごとに「クラスの学習問題」として学習問題を問いの文で示している。

(2) 問題解決的な学習や体験的な学習を実施するための工夫

- 見開きで「ようこそ〇年生の社会科へ」というページを設け、「見つける(ホップ)→調べる・話し合う(ステップ)→まとめる・広げる(ジャンプ)」という学習過程を示している。
- 5年「暮らしを支える自動車工業」では、「わたしたちの暮らしを支える自動車は、どのようにして作られているのだろう。」という学習問題を示し、「10年後の自動車」の企画書を作るというまとめ方を例示している。
- 4年「みんなでさがそう、昔の暮らし」では、せんたく板を使って洗濯をしている様子の写真を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3・4年の単元構成とページ数は、次のようになっている。
①わたしたちのまちはどんなまち(36ページ) ②見つけたよ、まちの人たちの仕事(42ページ) ③昔って、おもしろい(24ページ) ④安全、安心、みんなの暮らし(32ページ) ⑤さわやか、すこやか、みんなの暮らし(40ページ) ⑥ふるさとをゆたかに(24ページ) ⑦いいところいっぱい、わたしたちの県(42ページ)
- 5年の総ページ数は、228ページである(上・下巻なしの1冊)。また、6年の総ページ数は、228ページである(上・下巻なしの1冊)。

4 内容の表現・表記

(1) 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 6年の日本の歴史に関する単元では、文化財の写真について、表題の後に国(国宝)、世(世界遺産)のマークを記している。

(2) 本文以外の記述の工夫

- 学習内容におけるキーワードを「ことば」として取り上げ、用語の解説を記載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを取り入れている。

5 言語活動の充実

(1) 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 5年では、年間を通して、次の13のまとめ方を例示している。
①「日本の国土クイズ大会」を開く。②表にまとめる。③パンフレットをつくる。④インタビューをする。⑤ノートにまとめる。⑥食料生産等に関わる問題についてグループで調べて発表する。⑦「10年後の自動車」の企画書をつくる。⑧新聞にまとめる。⑨情報とのつきあい方を考えて話し合う。⑩「わたしたちの情報ルール」をつくる。⑪「わたしたちの環境宣言」をつくる。⑫手紙を書く。⑬防災のために、自分たちにできることを考える。

意見

光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

光村図書出版の教科書は、広島原爆や平和に関する文章記述や写真資料を多く掲載している。また、「見つける(ホップ)→調べる・話し合う(ステップ)→まとめる・広げる(ジャンプ)」という学習過程を示すことにより、問題解決的な学習を充実させるための工夫が施されている。調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成することができるよう、まとめ方の例を多く掲載している。こうした特徴は、自ら課題を見つけ、見通しをもって課題解決を図る力や、身に付けた知識や調べたことをもとに、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考える力に課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 5年「日本の国土」で、次の数の地形と具体的名称を地図に示している。
・平野(17)・盆地(0)・台地(0)・川(15)・山地、山脈、高地(20)
- 5年の国土に関する単元において、北方領土、竹島、尖閣諸島について、それぞれの位置を地図中に示すとともに、「領土をめぐる課題」という文章資料の中で、「日本固有の領土」と記載している。

(2) 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせるための工夫

- 5年の国土に関する単元では、19カ国の国名及び国旗を地図とともに掲載している。
- 6年「アジア・太平洋に広がる戦争」で、広島に落とされた原爆の様子、原爆投下を報じる新聞、広島で被爆した人を病院で手当する様子、敗戦直後の原爆ドームの4枚の写真を資料として掲載している。
- 6年「わたしたちのくらしと憲法」では、平和記念式典の様子、平和への誓いを読み上げる小学生の2枚の写真を資料として掲載している。
- 6年「新しい日本へのあゆみ」では、諸外国との間の、解決していかなければならない問題について、本文においてアメリカ軍基地に関して述べるとともに、「日本の領土や国境をめぐる課題」という文章資料を掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 学習内容に対する興味・関心を高めるための工夫

- 大單元ごとに「学習のまど」として学習のめあてを示している。また、小單元ごとに学習問題を問いの文で示している。

(2) 問題解決的な学習や体験的な学習を実施するための工夫

- 見開きで「問いの旅」というページを設け、「出会う→ぎもんをもつ→問題をつかむ→予想を立てる→調べる→わかる→ふりかえり、表現する」という学習過程を示している。
- 5年「自動車工業のさかんな地域」では、「わたしたちのくらしにかかせない自動車は、どのように生産されているのだろう。」という学習問題を示し、「これからどんな自動車が求められているのか。」について自分の考えとその理由を発表し、話し合うというまとめ方を例示している。
- 4年「昔の道具と人びとのくらし」では、せんたく板を使って洗濯をしている様子の写真を掲載するとともに、「せんたく板の使い方」という文章資料と「せんたくのしかた」という側註の資料において、せんたく板の使い方について文章とイラストで説明している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3・4年の単元構成とページ数は、次のようになっている。
①わたしたちの住んでいるところ(46ページ) ②わたしたちのくらしとまちではたらく人びと(62ページ) ③今にのこる昔とくらしのうつりかわり(30ページ) ④住みよいくらしをつくる(46ページ) ⑤安全なくらしを守る(42ページ) ⑥地いきのはってんにつくした人々(22ページ) ⑦わたしたちの住んでいる県(42ページ)
- 5年の総ページ数は、228ページである(上巻106ページ、下巻122ページ)。また、6年の総ページ数は、252ページである(上巻168ページ、下巻84ページ)。

4 内容の表現・表記

(1) 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 6年の日本の歴史に関する単元では、文化財の写真について、表題の後に「国宝」「世界遺産」のマークを記している。

(2) 本文以外の記述の工夫

- 学習内容におけるキーワードを「キーワード」として取り上げ、用語の解説を記載している。また、「むずかしい言葉」として、難しい用語の解説を記載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインを取り入れている。

5 言語活動の充実

(1) 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 5年では、年間を通して、次の9つのまとめ方を例示している。
①白地図にまとめる。②表にまとめる。③ノートなどの表現物を見せながら、自分の考えを説明する。
④新聞にまとめる。⑤写真や資料を示しながら発表し、話し合う。⑥ノートにまとめる。⑦ふりかえりシートに図や文を使ってまとめる。⑧ふりかえりシートに文や矢印、線を用いて関係図にまとめる。⑨情報とのつきあい方を考えて話し合う。

平成31年度に使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔社会〕種目〔地図〕

1 本市の実態や児童の状況

- 本市には、官公庁や商業施設が集まる地域、工業・農業・漁業が行われている地域、宅地造成により住宅地が広がる地域、豊かな自然の残る地域、歴史的遺物が残る地域など、それぞれに異なる特色をもつ地域が分散している。社会的事象を学ぶ社会科にとっては、様々な分野の事象を具体的に観察・調査することができる環境にあるため、児童が興味・関心をもちながら学習することができる好条件の市域である。
- 国際平和文化都市である本市で学ぶ児童は、平和に対する意識が総じて高い。また、様々な社会的事象への関心も高く、体験的な学習にも積極的に取り組むことができる。しかし、自ら課題を見付け、見通しをもって課題解決を図る力や、身に付けた知識や調べたことをもとに、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考える力、社会参画しようとする力には課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 地図の見方や活用の仕方を定着させるための工夫 ② 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	③ 興味・関心を高めるための工夫 ④ 問題解決的な学習を実施するための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑤ 地図や資料等の配列
＜内容の表現・表記＞	⑥ 学習内容との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用 ⑦ 配色や文字の大きさ等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑧ 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

3 各教科書の特徴及び意見

東京書籍

1 基礎・基本の定着

(1) 地図の見方や活用の仕方を定着させるための工夫

- 「地図帳の使い方」を4ページ設け、地図記号、索引、方位、縮尺、地形表現の説明を掲載している。
- 「日本の47都道府県」のページを設け、47都道府県の名称と位置を示すとともに、形や特色をクイズ形式で紹介している。
- 「世界全図と地球儀」のページを設け、地球儀の使い方を写真を用いて示している。

(2) 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 「日本とそのまわり」のページを設け、排他的経済水域と東西南北端の4島の位置を示すとともに、写真を掲載している。
- 「日本列島」のページでは、北方領土、竹島、尖閣諸島について、それぞれの位置を示している。
- 「日本の自然災害」のページでは、M5.0以上の地震、大雨、大雪、台風といった自然災害の起こった位置と、活火山の位置を示すとともに、6枚の写真を掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高める工夫

- キャラクターの吹き出しで地図を見ての気付きや疑問などを記載している。
- 「日本の歴史と文化ー世界文化遺産ー」のページで、原爆ドームと厳島神社の写真と説明を掲載している。
- 「中国地方」のページで、広島県内の主な産業を、地図上に21の記号で示している。
- 世界の州別に掲載された地図には、各地の特色となる自然、産業、文化のイラストを示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 「～をさがしてみよう」「～を調べよう」「～をはかってみよう」等、活動を促す記述を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 地図や資料等の配列

- A版94ページ
- 日本全図は400万分の1、各地方図は原則として100万分の1（北海道地方は160万分の1）、都市圏などの拡大図は50万分の1から5万分の1、世界地図は4000万分の1から2000万分の1の縮尺で示している。

4 内容の表現・表記

(1) 学習内容との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 「地図帳の使い方」のページで、索引の引き方を5コマの漫画で示している。
- 索引を、日本と世界に分けて10ページ掲載している。「チェック欄」や「マイ・インデックス」という活動を促すコーナーがある。
- 「日本の歴史と文化ー世界文化遺産ー」のページで、15カ所の世界文化遺産を地図に示し、15枚の写真を掲載している。
- 各国の国旗を、巻末の世界地図とともに掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮しており、赤色文字の都道府県名や国名には白色で縁取りして読みやすくしている。
- ユニバーサルデザイン書体を採用し、大きめの文字や記号を使用している。
- 陸の高さと海の深さについて、日本全図のページは13段階、「中国地方」のページは10段階の色分けで示している。

5 言語活動の充実

(1) 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 次のような活動を例示している。
 - ① 自分が住んでいる所の気温や降水量を調べて、グラフをかく。
 - ② 行ったことのある所や行ってみたい所を記入して、自分だけの索引をつくる。

意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書は、中国地方のページに、広島県内の主な産業を21の記号で示している。「～をさがしてみよう」「～を調べよう」「～をはかってみよう」等、活動を促す記述を掲載しており、問題解決的な学習を実施するための工夫が施されている。調べたことや考えたことを表現する力を育成するための工夫として、自分が住んでいる所の気温や降水量を調べて、グラフをかく活動や行ったことのある所や行ってみたい所を記入して、自分だけの索引をつくる活動を例示している。こうした特徴は、自ら課題を見付け、見通しをもって課題解決を図る力や、身に付けた知識や調べたことをもとに、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考える力に課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 地図の見方や活用の仕方を定着させるための工夫

- 「地図のなりたちとやくそくごと」「地図帳の使い方」を6ページ設け、方位、土地の高さ、地図記号、縮尺、土地利用、索引の説明を掲載している。
- 「日本の都道府県」のページを設け、47都道府県の名称と位置を示すとともに、有名なものをイラストとともに掲載している。
- 「私たちの地球」のページを設け、地球儀の使い方を写真を用いて示している。

(2) 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 「日本とそのまわり」のページを設け、排他的経済水域と東西南北端の4島の位置を示すとともに、写真を掲載している。
- 「日本列島」のページでは、北方領土、竹島、尖閣諸島について、それぞれの位置を示すとともに写真と「日本固有の領土」という説明を掲載している。
- 「地震・火山の災害と防災」のページでは、M7.5以上の地震の起こった位置と、主な火山の位置を示すとともに、2枚の写真を掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高める工夫

- キャラクターの吹き出しで地図を見ての気付きや疑問などを記載している。
- 「日本の歴史」のページで、厳島神社の写真を掲載している。
- 「中国地方」のページで、「広島市のようす」という主題図を掲載し、爆心地からの距離や原爆の被害状況を示している。
- 「中国地方」のページで、広島県内の主な産業を、地図上に29の記号で示している。
- 世界の州別に掲載された地図には、各地の特色となる自然、産業、歴史、文化のイラストを示している。国語科や音楽科と関連して、有名な文学作品、作曲家や楽曲についてもイラストで示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 「～をしようかしよう」「～をさがしてみよう」「～を調べよう」等、活動を促す記述を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 地図や資料等の配列

- AB版86ページ
- 日本全国は400万分の1、各地方図は原則として100万分の1（北海道地方は200万分の1）、都市圏などの拡大図は50万分の1から10万分の1、世界地図は4000万分の1から1500万分の1の縮尺で示している。

4 内容の表現・表記

(1) 学習内容との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 「地図帳の使い方」のページで、索引の引き方をキャラクターの吹き出しを用いて示している。
- 索引を、日本と世界に分けて6ページ掲載している。「トライ」という活動を促すコーナーもある。
- 「日本の歴史」のページで、15カ所の世界文化遺産を地図に示し、7枚の写真を掲載している。また、8カ所の「明治日本の産業革命遺産」を地図に示している。
- 各国の国旗を、州の地図とともに各ページに掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮しており、赤色文字の都道府県名や国名には黒色で縁取りして読みやすくしている。
- 国語科で学ぶ「とめ」「はね」「はらい」が正しく表された書体を採用している。
- 日本全国図のページでは、陸の高さと海の深さについて、13段階で示している。「中国地方」のページでは、陸の高さと海の深さについて、5段階の色分けと、「市街地」「田」「畑」「果樹園」の4種類の色分けを加えて示している。

5 言語活動の充実

(1) 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 次のような活動を例示している。
 - ① 自分の住んでいる都道府県や知っている都道府県の紹介文を書く。
 - ② 防災への意識を高めるために、防災マップを作成する。

意見

帝国書院の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

帝国書院の教科書は、中国地方のページに「広島市のようす」という主題図を掲載し、爆心地からの距離や原爆の被害状況を示したり、広島県内の主な産業を29の記号で示したりしている。また「～をしようかしよう」「～をさがしてみよう」「～を調べよう」等、活動を促す記述を掲載しており、問題解決的な学習を実施するための工夫が施されている。調べたことや考えたことを表現する力を育成するための工夫として、自分の住んでいる都道府県や知っている都道府県の紹介文を書く活動や防災マップを作成する活動を例示している。こうした特徴は、社会の学習において有効に活用できるものであるとともに、自ら課題を見付け、見通しをもって課題解決を図る力や、身に付けた知識や調べたことをもとに、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考える力に課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。

平成31年度に使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔算数〕種目〔算数〕

1 本市の実態や児童の状況

- 本市では、全小学校第1学年から第4学年において帯時間を設定し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図っている。また、児童の思考力・判断力・表現力を高めるために、授業において、めあてを明確にし、算数的活動に重点をおいた授業づくりに取り組んでいる。
- 平成29年度の「基礎・基本」定着状況調査によると、四則計算は概ね定着しているが、量感覚の定着や図形の定義や性質を適切に記述することに課題がみられる。また、平成29年度の全国学力・学習状況調査によると、課題解決に向けて、与えられた情報を整理し、筋道を立てて考え、それを基に条件に合うものを判断することや、解決する過程を式や言葉等で表現し、根拠を明確にして考えを説明することに課題がみられる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫 ② 単元の目標の示し方
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	③ 興味・関心を高めるための工夫 ④ 問題解決的な学習を実施するための工夫 ⑤ 作業的・体験的な学習を実施するための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑥ 単元や資料等の配列 ⑦ 補充的な学習や発展的な学習の取扱い
＜内容の表現・表記＞	⑧ 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫 ⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑩ 自分の考えを説明・表現する学習活動を充実させるための工夫

3 各教科書の特徴及び意見

東京書籍

1 基礎・基本の定着

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 単元末に評価問題があり、3年以上には、各問題ごとに振り返りのページを示している。
- 単元末の評価問題に答えはない。
- 単元末に、評価問題とは別に練習問題があり、繰り返し練習できるようにチェック欄が2つある。
- 学習した言葉や記号、学習したページが分かるように、巻末に索引がある。
- 前学年までの学習内容を簡潔にまとめたページがある。
- 数単元ごとに、復習問題とその答えがある。

(2) 単元の目標の示し方

- 単元名と同じ場所に、単元の目標を大きく黒文字で示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 身近なものを写真や絵で提示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 吹き出しで、自力解決を促すヒントを示している。
- 考えるためのヒントを、共通のマークや吹き出しによって表示している。
- 45分の授業の進め方が、授業を進めながら分かるように、各学年数単元ずつ単元の中に詳しく示してある。
- 数学的な考え方を単元の中で学習展開に沿って示している。

(3) 作業的・体験的な学習を実施するための工夫

- 作業的・体験的な学習に使えるページが、全学年巻末にある。
- 3年「重さ」では、提示された物を重い順に並べる問題において、作業的・体験的活動を促すために、写真から重い順を判断できないようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 6年、年間1冊。1～5年、年間2冊。
- 単元の導入では、課題が書かれているページの裏のページに課題解決のための考えが載っている。
- 目次に、前の学習→今の学習→後の学習と、単元の系統性を示している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 3年以上には、補充問題と発展問題を区別して掲載している。
- 補充問題と発展問題の答えを掲載している。
- 補充問題と発展問題のページ数
2年9p、3年18p、4年23p、5年28p、6年15p。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 2年「分数」では、具体物の絵を導入で使い、その後、折り紙の図、3年につながるテープの図を使って、分けた大きさの表し方を示している。
- 4年「直方体と立方体」では、細かく段階を経て立体を理解するために、具体物の写真、見た目の図、展開図、見取図の順で内容が示されている。見取図のかき方が示されている。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて掲載している。

5 言語活動の充実

(1) 自分の考えを説明・表現する学習活動を充実させるための工夫

- 全ての学年にノート例を示している。
- 課題を考えさせた後で「説明しましょう。」などと、言語活動を促す問題を設定している。
- 5年「台形の面積」では、3人の考えを説明するために図と式を示し、数学的な表現を用いた説明を途中まで例示している。

意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書は、問題解決的な学習を実施するための工夫として、45分の授業の進め方を一つの単元を例に詳しく示している。また、量感覚を養うために、作業的・体験的な活動を促す構成になっていたり、図形の理解を図るために、細かく段階を経て図形や立体を示したりしている。さらに、自分の考えを分かりやすく説明・表現することができるように、言葉・式・図等を用いた説明や表現を例示している。こうした特徴は、量感覚の定着や、課題解決に向けて、筋道を立てて考え、表現し、説明することに課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 単元末に評価問題があり、各問題ごとに振り返りのページを示している。
- 単元末の評価問題に答えはない。
- 単元末に、評価問題とは別に練習問題はない。
- 学習した言葉や記号、学習したページが分かるように、巻末に索引がある。
- 前学年までの学習内容を簡潔にまとめたページはない。
- 数単元ごとに、復習問題がある。

(2) 単元の目標の示し方

- 単元名と同じ場所に、単元の目標を大きく黒文字で示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 身近なものを写真や絵で提示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 吹き出しで、自力解決を促すヒントを示している。
- 考えるためのヒントを、共通のマークや吹き出しによって表示している。
- 45分の授業の進め方が、前学年の学習を例に、巻頭に示してある。
- 数学的な考え方をまとめた解説ページはない。

(3) 作業的・体験的な学習を実施するための工夫

- 作業的・体験的な学習に使えるページが、全学年巻末にある。
- 3年「重さ」では、提示された物を重い順に並べる問題において、作業的・体験的活動を実施しなくても、写真から重い順を判断できるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 1～6年、年間1冊。
- 単元の導入では、課題が書かれているページの裏のページに課題解決のための考えが載っている。
- 目次に、前の学習→今の学習と、単元の系統性を示している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 補充問題と発展問題を同ページに掲載している。
- 補充問題と発展問題の答えを掲載している。
- 補充問題と発展問題のページ数
2年14p、3年14p、4年19p、5年15p、6年15p。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 2年「分数」では、具体物の写真を導入で使い、その後、折り紙の図を使って、分けた大きさの表し方を示している。
- 4年「直方体と立方体」では、具体物の写真、見取図、展開図の順で内容が示されている。見取図のかき方が示されていない。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて掲載している。

5 言語活動の充実

(1) 自分の考えを説明・表現する学習活動を充実させるための工夫

- 2年以上の学年にノート例を示している。
- 課題を考えさせた後で「説明しましょう。」などと、言語活動を促す問題を設定し、説明を教科書に書き込めるようにしている。
- 5年「台形の面積」では、3人の考えを説明するために、図のみ例示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 単元末に評価問題があり、各問題ごとに振り返りのページを示している。
- 単元末の評価問題に答えはない。
- 単元末に、評価問題とは別に練習問題があり、繰り返し練習できるようにチェック欄が2つある。
- 学習した言葉や記号、学習したページが分かるように、巻末に索引がある。
- 前学年までの学習内容を簡潔にまとめたページはない。
- 数単元ごとに、復習問題とその答えがある。

(2) 単元の目標の示し方

- 単元名と同じ場所に、単元の目標を大きく黒文字で示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 身近なものを写真や絵で提示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 吹き出しで、自力解決を促すヒントを示している。
- 考えるためのヒントを、共通のマークや吹き出しによって表示している。
- 45分の授業の進め方が、授業を進めながら分かるように、各学年数単元ずつ単元の中に示してある。
- 数学的な考え方をまとめた解説ページがある。

(3) 作業的・体験的な学習を実施するための工夫

- 作業的・体験的な学習に使えるページが、全学年巻末にある。
- 3年「重さ」では、提示された物を重い順に並べる問題において、作業的・体験的活動を実施しなくても、写真から重い順を判断できるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 1・5年、年間1冊。2・3・4年、年間2冊。6年、年間1冊と別冊。
- 単元の導入では、課題が書かれているページの裏のページに課題解決のための考えが載っている。
- 目次に、前の学習→今の学習と、単元の系統性を示している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 補充問題と発展問題を区別して掲載している。
- 3年以上に、補充問題の答えを掲載している。発展問題の答えはない。
- 補充問題と発展問題のページ数
1年11p、2年27p、3年28p、4年27p、5年19p、6年18p。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 2年「分数」では、具体物の写真を導入で使い、その後、折り紙の図を使って、分けた大きさの表し方を示している。
- 4年「直方体と立方体」では、具体物の写真、見取図、展開図の順で内容が示されている。見取図のかき方が示されている。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて掲載している。

5 言語活動の充実

(1) 自分の考えを説明・表現する学習活動を充実させるための工夫

- 2年以上の学年にノート例を示している。6年は、レポート例も示している。
- 課題を考えさせた後で「説明しましょう。」などと、言語活動を促す問題を設定している。
- 5年「台形の面積」では、4人の考えを説明するために、図を示し、その中の1つの考えだけ、数学的な表現を用いた説明を例示している。

意見

学校図書の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

学校図書の教科書は、単元末にある評価問題とは別に練習問題があり、繰り返し練習できるようにチェック欄がある。さらに、巻末には、自学自習するための答えもある。問題解決的な学習を実施するための工夫として、45分の授業の進め方を一つの単元を例に示している。また、自分の考えを分かりやすく説明・表現することができるように、複数の考えを言葉・式・図等を用いて例示している。こうした特徴は、課題解決に向けて、筋道を立てて考え、表現し、説明することに課題がある本市児童の状況や、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る必要がある本市の実態に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 単元末に評価問題があり、各問題ごとに振り返りのページを示している。
- 単元末の評価問題に答えはない。
- 単元末に、評価問題とは別に練習問題はない。
- 学習した言葉や記号、学習したページが分かるように、巻末に索引がある。
- 前学年までの学習内容を簡潔にまとめたページが、5・6年にある。
- 数単元ごとに、復習問題とその答えがある。

(2) 単元の目標の示し方

- 単元名が大きく黒文字で示してあり、単元の目標はない。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 身近なものを写真や絵で提示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 吹き出しで、自力解決を促すヒントを示している。
- 考えるためのヒントを、共通のマークや吹き出しによって表示している。
- 45分の授業の進め方が、おもしろ問題を例に、巻頭に示してある。
- 数学的な考え方をまとめた解説ページが、3年以上にある。

(3) 作業的・体験的な学習を実施するための工夫

- 作業的・体験的な学習に使えるページが、全学年巻末にある。
- 3年「重さ」では、提示された物を重い順に並べる問題において、作業的・体験的活動を実施しなくても、写真から重い順を判断できるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 1・5・6年、年間1冊。2・3・4年、年間2冊。
- 単元の導入では、課題が書かれているページの裏のページに課題解決のための考えが載っている。
- 目次に、前の学習→今の学習と、単元の系統性を示している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 補充問題と発展問題を同ページに掲載している。
- 補充問題と発展問題の答えを掲載している。
- 補充問題と発展問題のページ数
2年13p、3年14p、4年17p、5年19p、6年16p。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 2年「分数」では、具体物の絵を導入で使い、その後、折り紙の図、3年につながるテープの図を使って、分けた大きさの表し方を示している。
- 4年「直方体と立方体」では、具体物の写真、見た目の図、見取図、展開図の順で内容が示されている。見取図のかき方が示されていない。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて掲載している。

5 言語活動の充実

(1) 自分の考えを説明・表現する学習活動を充実させるための工夫

- 2年以上の学年にノート例を示している。
- 課題を考えさせた後で「説明しましょう。」などと、言語活動を促す問題を設定している。
- 5年「台形の面積」では、3人の考えを説明するために図を示し、説明を途中まで例示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 単元末に評価問題があり、各問題ごとに振り返りのページを示し、問題を解いたことを確認するチェック欄がある。
- 4年以上の学年で、単元末の評価問題に答えがある。
- 単元の途中途中に、評価問題とは別に練習問題がある。
- 学習した言葉や記号、学習したページが分かるように、巻末に索引がある。
- 前学年までの学習内容を簡潔にまとめたページが、5・6年にある。
- 数単元ごとに、復習問題がある。

(2) 単元の目標の示し方

- 単元名は青文字で、単元の目標は導入後オレンジ文字で示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 身近なものを写真や絵で提示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 吹き出しで、自力解決を促すヒントを示している。
- 考えるためのヒントを、共通のマークや吹き出しによって表示している。
- 45分の授業の進め方が、前学年の学習を例に、巻頭に示してある。
- 数学的な考え方をまとめた解説ページがある。

(3) 作業的・体験的な学習を実施するための工夫

- 作業的・体験的な学習に使えるページが、全学年巻末にある。
- 3年「重さ」では、提示された物を重い順に並べる問題において、作業的・体験的活動を実施しなくても、写真から重い順を判断できるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 1・5・6年、年間1冊。2・3・4年、年間2冊。
- 単元の導入では、課題が書かれているページの裏のページに課題解決のための考えが載っている。
- 目次に、前の学習→今の学習と、単元の系統性を示している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 補充問題と発展問題を区別して掲載している。
- 補充問題の答えを掲載している。発展問題の答えはない。
- 補充問題と発展問題のページ数
1年3p、2年32p、3年35p、4年30p、5年26p、6年26p。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 2年「分数」では、具体物の写真を導入で使い、その後、折り紙の図、3年につながるテープの図を使って、分けた大きさの表し方を示している。
- 4年「直方体と立方体」では、具体物の写真、見取図、展開図の順で内容が示されている。見取図のかき方が示されている。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて掲載している。

5 言語活動の充実

(1) 自分の考えを説明・表現する学習活動を充実させるための工夫

- 2年以上の学年にノート例を示している。
- 課題を考えさせた後で「説明しましょう。」などと、言語活動を促す問題を設定している。
- 5年「台形の面積」では、2人の考えを説明するために図を示し、数学的な表現を用いた説明を途中で例示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 単元末に評価問題があり、各問題ごとに振り返りのページを示している。
- 単元末の評価問題に答えはない。
- 単元末に、評価問題とは別に練習問題はない。
- 学習した言葉や記号、学習したページが分かるような索引はない。
- 前学年までの学習内容を簡潔にまとめたページがある。
- 2年以上の学年で、数単元ごとに、復習問題がある。

(2) 単元の目標の示し方

- 単元名と同じ場所に、単元の目標を大きく黒文字で示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 身近なものを写真や絵で提示している。

(2) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 吹き出しで、自力解決を促すヒントを示している。
- 考えるためのヒントを、共通のマークや吹き出しによって表示している。
- 45分の授業の進め方が、前学年の学習を例に、巻頭に示してあり、授業を進めながらも分かるように、各学年数単元ずつ単元の中に詳しく示してある。
- 数学的な考え方をまとめた解説ページがある。

(3) 作業的・体験的な学習を実施するための工夫

- 作業的・体験的な学習に使えるページが、1～5年の巻末にある。
- 3年「重さ」では、提示された物を重い順に並べる問題において、作業的・体験的活動を実施しなくても、写真から重い順を判断できるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 1年、年間1冊。2～6年、年間2冊。
- 単元の導入では、課題が書かれているページの裏のページに課題解決のための考えが載っている。
- 目次に、前の学習→今の学習と、単元の系統性を示している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 補充問題と発展問題を区別して掲載している。
- 補充問題と発展問題の答えを掲載している。
- 補充問題と発展問題のページ数
2年38p、3年44p、4年40p、5年44p、6年36p。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 2年「分数」では、折り紙の図を導入で使い、その後、3年につながるテープの図を使って、分けた大きさの表し方を示している。
- 4年「直方体と立方体」では、具体物の写真、見た目の図、見取図、展開図の順で内容が示されている。見取図のかき方が示されている。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 新しい用語は太字で書体を変えて掲載している。

5 言語活動の充実

(1) 自分の考えを説明・表現する学習活動を充実させるための工夫

- 2年以上の学年にノート例を示している。
- 課題を考えさせた後で「説明しましょう。」などと、言語活動を促す問題を設定している。
- 5年「台形の面積」では、2人の考えを説明するために、図を示し、数学的な表現を用いた説明を途中まで例示している。